

平成21年11月1日

第68号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rirya.maff.go.jp/kanto/>



ひうちがたけ
燧ヶ岳から尾瀬沼を望む（福島県 檜枝岐村）
（撮影者：会津森林管理署南会津支署 塙 薫）

美しい森林づくり

効率的な作業システムの普及と
林地残材の有効活用に向けた取り組み

森林整備部 販売課

私の視点

「谷川岳に魅せられて」

谷川岳グリーン・サポート・スタッフ 本多 太一氏

美しい森林づくり

効率的な作業システムの普及と

林地残材の有効活用に向けた取り組み

森林整備部 販売課

効率的な作業システムの普及

関東森林管理局では、地球温暖化防止のための森林吸収源対策として、間伐による森林整備を積極的に取り組んでいます。一方、木材価格は低迷しており、このような中で、間伐などの整備を進め、充実しつつある森林資源を活かし、真に国産材時代を築いていくため



効率的な作業路作設の検討会



根株を利用した作業路

には作業システムの効率化が不可欠です。

これからはコストや安全性の観点からも、車両系システムを中心とした作業の組立てが必要になると考えられ、各地域に適した作業路網の普及と作業システムの効率

化を図っていくことが重要となっています。

このため、関東森林管理局では平成18年度から各地で「低コストで壊れにくい作業路網」（高性能林業機械が利用できる作業路）作設の技術取得のための現地検討会を開催しています。

今年度は、局主催で9月16日（水）に静岡県内を対象に、また、福島県の会津流域林業活性化センターと会津森林管理署の共催により10月7日（水）に会津流域を対象として開催し、それぞれ県の林務担当者、森林組合関係者、請負事業体、森林管理署担当職員等が参加しました。

検討会では、講師から表土や根株を利用した作業路作設の実演後、林業事業体のオペレーターを対象に講習を行いました。

林地残材の有効活用に向けた取り組み

向けた取り組み

間伐による森林整備等の実施に伴い発生する林地残材を有効に活用するため、本年度は磐城森林管理署、棚倉森林管理署及び福島森林管理署において、端材などの林地残材の試験販売を実施しています。

この試験販売では、買受者が端

材などが約1.5立方メートルのコンテナを作製して事業現場に搬送し、生産請負者は造材の際に発生した端材（タンコロ）を、フォワーダーに搭載したコンテナに積み込み、積載重量を基に山元で販売します。このような端材は、主に燃料用及びパルプ用原料としての需要が高まっており、今回の取組結果を検証し、引き続き取り組んでいきます。



林地残材の販売

赤谷プロジェクト 近況報告



今年生まれたクマタカの幼鳥

猛禽類調査について

赤谷プロジェクトでは、健全な森林生態系の指標動物として、食物連鎖の頂点に立つ大型猛禽類のイヌワシやクマタカに着目し、その生態を地元の方、サポーター、(財)日本自然保護協会、赤谷センター職員が協力し合いながら継続的に調査しております。

イヌワシは、主に北半球のシベリア、アラスカ、ロッキー山脈等の北半球高緯度の草原や低灌木地帯に生息しています。一方、クマタカはインド南部からインドシナ半島、中国、日本等の森林地帯に生息しています。

「赤谷の森」のように、同地域に北方系・草原性のイヌワシと南方系・森林性のクマタカが生息している例は世界的に珍しく、大変貴重なエリアです。

これまでの調査から、どのような環境を好んで営巣するかなど一部については判明しつつあるものの、行動範囲の広いイヌワシの狩場など、まだまだ十分なデータが得られていない実態です。

今後、このような調査を活用し、イヌワシやクマタカが生息できる森づくりを通じて、生物多様性の復元を図ることを考えています。

自然環境モニタリング会議の開催

10月9日(金)、平成21年度第1回自然環境モニタリング会議が開催されました。自然環境モニタリング会議は、植生管理や猛禽類などの各分野の専門家と赤谷プロジェクト地域



各ワーキンググループの取組を議論

協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局により構成され、植生管理などの各ワーキンググループを統括し、赤谷プロジェクトの活動について、科学的な立場から助言を行っています。

今回は、これまでの各ワーキンググループの成果、短期目標、長期目標を再確認し、今年度の進捗状況を報告しました。

また、次期地域管理経営計画等へこれまでの赤谷プロジェクトの成果や地元住民の意見反映を目的として、「赤谷の森構想文書(仮称)」について検討を進めました。今後、地元住民へ「赤谷の森」の現状や森林計画制度について説明会の開催などを予定しています。

JICA海外研修生の受け入れ

10月20日(火)森林技術総合研修所が実施している海外技術研修「持



三国街道の紅葉も見事



お疲れさまでした。

続可能な森林経営の実践活動促進Ⅱ研修」の「参加型森林経営手法」の現地講義として、アフリカ、南米、アジアなどの研修生11名が「赤谷の森」を訪れました。研修生の皆さんは、母国に戻って森林・林業分野のリーダーとなる方々です。

当日は、「いきもの村」や旧猿ヶ京小学校において、赤谷プロジェクトの経緯や取組、さらには、三国街道沿いのブナ林で赤谷プロジェクトの目指す森林のイメージなどを解説しました。

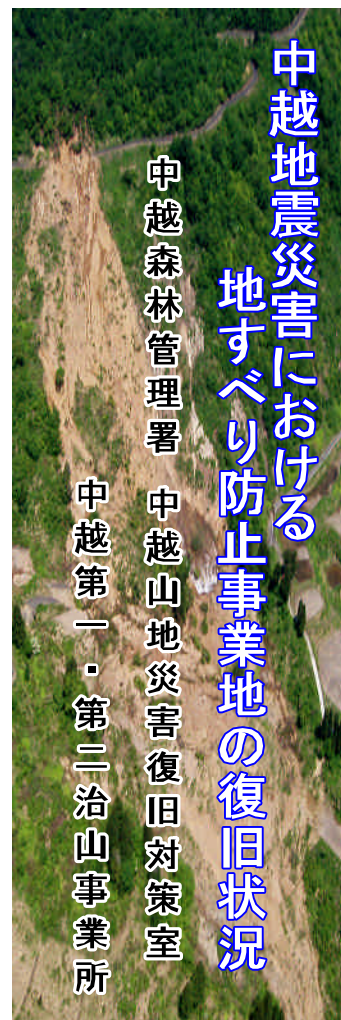
三国街道は紅葉も見事で、研修生からは感動の声が上がっていました。母国に帰っても「赤谷の森」を思い出していただきたいと考えています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

中越地震災害における 地すべり防止事業地の復旧状況

中越森林管理署 中越山地災害復旧対策室

中越第一・第二治山事業所



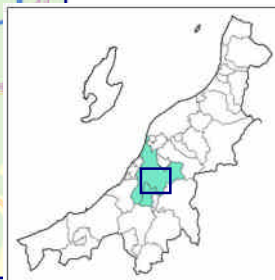
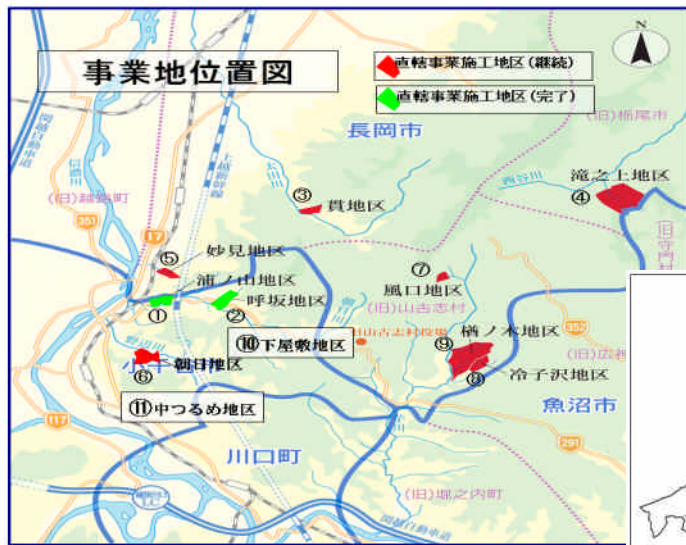
平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震は、長岡市、小千谷市等の中山間地域で大規模な地すべり等が多数発生し、集落、道路等に甚大な被害がありました。

このため林野庁では、新潟県の要請を踏まえ、平成16年度に民有林直轄地すべり防止災害関連緊急事業を導入し、引き続き平成17年度から「中越地区民有林直轄地すべり防止事業」に着手し、全体計画（総工事費約162億円、施工予定期間概ね10年間、総面積599㏊、保全対象は関越自動車道・国道・県道・集落・農地・上越新幹線・JR上越線等）に基づき、地すべり防止事業を実施してきました。

中越地震の発生から5年が経過し、年間の約半分を雪に覆われる被災地域では、復旧工事の実施期間が限定される中、事業は計画どおり順調に推移しています。

以下、平成17年度から中越森林管理署で実施している中越地区民有林

直轄地すべり防止事業地（11地区）の復旧状況について紹介させていただきます。



①浦ノ山地区（写真1）、②呼坂地区（写真2）については、平成19年3月で事業を完了し、地震によって崩落した斜面を緑化して上越新幹線の施設保全が図られ、また、養鯉池や水田の復旧により錦鯉の養殖や稲の作付が始っています。

③貫地区、④滝之上地区、⑤妙見地区については、平成17年度から事業に着手し、これまでに法枠工・排水工・集水井工等を実施しました。引き続き平成26年度完了に向けて事業を推進します。

⑥朝日地区については、平成19年度から事業に着手し、集水井工、水路工等を実施しました。引き続き平成26年度完了に向けて事業を推進します。

⑦風口地区、⑧冷子沢地区、⑨楠ノ木地区（写真3）については、平成17年度から事業に着手し、法枠工・鋼製自在枠工・鋼製谷止工等を実施しました。早急な完了に向け事業を推進します。

⑩下屋敷地区、⑪中つるめ地区については、新潟県等関係機関と連携を図りながら、平成22年度から着手し、平成26年度完了に向けて事業を推進します。

これまでに各地区に併せて約87億円を投資して地すべり防止事業を進めており、全体計画額（10年間）の



1 小千谷市浦柄「浦ノ山地区」完了状況
（平成19年7月撮影）



1 小千谷市浦柄「浦ノ山地区」被災状況
（平成16年10月撮影）



2 小千谷市小栗山「呼坂地区」完了状況
(平成19年7月撮影)



2 小千谷市小栗山「呼坂地区」被災状況
(平成16年10月撮影)



3 長岡市山古志「樺ノ木地区」復旧状況



3 長岡市山古志「樺ノ木地区」被災状況
(平成17年6月撮影)

進行率は約54%となっています。
これからも、新潟県、長岡市、小千谷市、土地所有者等と連携を図りながら地元住民の要請に的確に応えるべく、効率的、効果的な事業の推進に努めながら災害の防止、生活再建の支援のため、職員一丸となつて着実な実施に努めていきます。

(中越森林管理署・中越山地災害復旧対策室・中越第一・第二治山事業所)

森林・林業公開講座 開催のお知らせ

森林技術センターでは、多くの皆さんに森林や林業についてご理解を深めていただきたいと考え「フナの子の豊凶と熊の行動」というテーマで森林総合研究所群活動態研究室長の正木隆先生を講師にお迎えし、公開講座を開催します。

開催日時 平成21年11月20日(金)

13時30分から15時30分

開催場所 茨城県工業技術センター

窯業指導所研修室

茨城県笠間市笠間2364ノ3

(芸術の森公園内)

電話 0296(72)0316

講演内容:「フナの子の豊凶と熊の行動」

熊の行動

受講対象:一般及び官公庁森林・林業担当者ほか*参加費無料

お問い合わせ先

関東森林管理局森林技術センター

〒309-1625 茨城県笠間市来栖87ノ1

(担当:星)

電話 0296(72)1146

FAX 0296(72)1842

URL <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/gizutu/index.html>

私の視点

「谷川岳に魅せられて」

谷川岳グリーン・サポーター・スタッフ 本多 太一



トマの耳からオキの耳方面を望む

「おはようございます。今日はどちらまで登られますか。」登山者と挨拶を交わしながら、谷川岳天神尾根を登って行くと、やがて赤や黄色に染まったナナカマドやカエデに迎えられる一息する。木々の間からは谷川岳の山頂が見え隠れし、谷から吹き上げる風は汗ばんだ身体を優しくつつみ、山頂めざしパトロールする我々を後押ししてくれます。

谷川岳は群馬県と新潟県を分ける三国山脈の東に位置し、山頂は双耳



紅葉する一ノ倉

峰（群馬県から見るとネコの耳のように見える。）と呼ばれるトマの耳（1,963m）とオキの耳（1,977m）からなり、東面（群馬県側）は、一ノ倉沢、マチガ沢、幽ノ沢などの急峻な岩場で、特に一ノ倉沢は日本の三大岩場とも呼ばれ、仰ぎ見る雄大な岩壁は絵はがきやポスターでもおなじみの場所です。

稜線の北側（新潟県側）は東面とは対照的に比較的ならかな斜面が続く、ハイマツ、クマザサなどに覆われています。

中腹の天神平（1,300から1,500m）は、春から夏にかけて高山植物が咲き乱れる花の楽園として登山者を喜ばせ、冬は関東でもっとも有名なスキー場として一年を通じて多くの人々で賑わっています。

かつて登山ブームの頃、遭難者が多発し「魔の山」と呼ばれていましたが、現在は遭難事故も減少し、ロープウェーを利用すれば気楽に登れる山となりました。

私達4名の谷川岳グリーンサポーターの業務は、この美しい谷川岳の自然や森林環境を守るため、入山者が最も多い8月から10月までの毎週金曜日から日曜日の三日間、主に天神平周辺と一ノ倉周辺を二人一組でパトロールしています。

具体的には、違法な草花の採取、樹木の伐採を防止するための監視、しおりやチラシを配布しながらゴミの持ち帰り運動のPRなどを行っています。時には山頂へも登り、高山植物の保護や登山道の状況を確認



枯木の整理をするサポーター

することもあります。以前は、植物の盗採も多く見受けられましたが、最近は登山者のマナーが向上し、心ない人達はほとんどいないように感じます。

パトロールをしていると、「森の住人」であるクマやサルに遭遇したり、疲労やけがをした登山者を看護し付き添って下山することや迷子になった子供を捜しにいったりと様々な出来事があり、肉体的にもきつい仕事ですが、行き交う登山者から「大変ですね。ご苦労様です。」など声をかけられると、疲れもいっぺんに吹き飛び、感謝される喜びとやりがいを感じています。

こうした私達の仕事は、日本百名山である谷川岳の美しい自然や森林を守ることにつながる大切な任務と誇りをもち、登山者の安全を祈りながら今日もパトロールを続けています。



登山者との楽しいふれあい(著者)

森林官からのあたり

会津森林管理署 ゆのかみ 湯野上森林事務所 森林官 せき 関 かずひこ 和彦



かやぶき
萱葺屋根の会津鉄道湯野上温泉駅

私が勤務している湯野上森林事務所は、福島県の会津若松市南東部・会津美里町南東部・下郷町北部にまたがる国有林5,494^{ゆのかみ}haを管理しています。

森林事務所は国道121号線に接する下郷町・湯野上温泉街付近に位置し、国道沿いには阿賀川（大川）が流れており、川沿いには芦ノ牧温泉や湯野上温泉のほか、国の天然記念物にも指定されている景観地として有名な塔のへつりがあり、四季折々さまざまな景色を眺めることができます。

また、森林事務所から会津美里町・栃沢方面へ県道を進んだ先には全国的に観光地として知られている大内宿があります。大内宿は、元々は江戸時代初期に会津藩によって整備された下野街道の宿場の一つでした。また、下野街道は会津と江戸を結ぶ重要な街道でした。大内宿は、当時のままの姿を今日まで残しており、江戸時代から続く萱葺屋根の家並みや郷愁を楽しむため、現在では多くの観光客が年間を通じて訪れ賑わいを見せています。

当事務所管内は、豪雪地帯とまではいかないものの、12月中下旬以降は積雪で山に行くことが出来なくなるので、雪が降る前に収穫調査や造林条件調査、測定用務等の現場業務を終了させ、山が雪で覆われている間は書類



国指定の天然記念物「塔のへつり」

や台帳等の整理等を進めている間に春が訪れるというように年が過ぎていきます。

近年は森林吸収源対策等の事業で、スギを主体とした人工林の保育間伐等を中心とした森林整備を行っています。しかし、管内にはまだまだ整備を必要とする森林がたくさんありますので、今後も積極的に森林整備を進めて行きたいと考えています。

私は当森林事務所に勤務して3年目となりました。現場業務は、同じ調査をするにしても山によって条件は違うので日々勉強の毎日だと感じています。

近年、大不況といわれている中、農業に注目が集まっていますが、私は林業がもっと注目されても良いのではないかと思います。森林が持つ機能は目に見えるもの・見えないものも含めて私たちに与えてくれている影響は計り知れないものがあると思います。そのようなことも考えつつ、林業に携わるもの、また一森林官として今後も日々精進していく考えています。



大内宿



湯野上温泉から眺めた大川と小野岳

管内の百名山「燧ヶ岳」

燧ヶ岳は、福島県南部に位置し東北一の高さを誇ります。最高峰である柴安岳（2,356㍎）を始め、姥岳（2,346㍎）ミノブチ岳（2,234㍎）、赤ナグレ岳（2,249㍎）御池岳（2,201㍎）などのピークから成り立ち燧ヶ岳というピークはありません。

登山道は、長英新道、御池口、見晴新道などのコースがあり、一般的には登りやすさから2番目に短い長英新道が使われています。御池口は、御池駐車場から直接登ることができ、途中には広沢田代、熊沢田代等美しい湿原があり、キンコウカ、ワタスゲ等の高山植物が見られ、人気のコースです。

記録に残っている燧ヶ岳の最初の登頂者は平野長蔵とのことです。燧ヶ岳を含む尾瀬地域の年間入山者数は、平成20年度で約353千人、このうち福島側の入山者数は105千人で約30%を占めます。

燧ヶ岳周辺の国有林は、下流域の只見川右岸に広がるブナ林などの原生的な森林を含め約8万㍎の広大な地域を「奥会津森林生態系保護地域」として保護しており、南会津支署では平成19年度から、入山の多い時季の休日に森林保護員（愛称「グリーン・サポート・スタッフ」）2名が、燧ヶ岳を含む尾瀬地区を中心にパトロールを実施し、入山者にごみの持帰り、自然保護等を記載したしおりの配布等を行い指導、啓発活動を行なっています。



熊沢田代から山頂を望む



尾瀬沼越しに燧ヶ岳を望む



広沢田代の池塘群

また、尾瀬地域は、平成19年8月30日に尾瀬国立公園に指定されました。区域面積は、尾瀬地域25,203㍎と会津駒ヶ岳及び田代山・帝釈山周辺地域11,997㍎で計37,200㍎です。

南会津支署は、今後もこの自然豊かな森林を保全するとともに、安全で快適なレクリエーションの場として利用していただくために、森林の整備や保全のための活動を積極的に行なうこととしています。

（南会津支署広報広聴連絡官）

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/niko/index.html

申込先 日光森林管理署
参加費 200円（傷害保険料）
募集人員 先着30名
電話番号 0288(22)1069
申込締切 平成21年11月19日（木）

実施日 平成21年11月29日（日）
実施場所 日光市所野
集合場所 小倉山野鳥の森（国有林）
日光市交流促進センター
実施内容 野鳥観察会・木工工作
駐車場



日光森林管理署と日本野鳥の会栃木県支部は、小倉山野鳥の森（国有林）において「森と野鳥に親しむつどい」を開催します。

森と野鳥に親しむつどい

参加者募集